

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい科学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、章末に重要語句の確認としての『学んだことをチェックしよう』や、単元末に基本事項の確認として『確かめと応用』が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、探究の過程に関する言語活動として『課題に対する自分の考えは?』や『考察しよう』などが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、環境の保全に関する『温暖化予測で世界に貢献』などが取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際的な課題としてのSDGsに関連する『温暖化』などを取り上げた『世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『楽器づくり』などの職業が取り上げられた『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、自分と他者との考えを交流させる活動として『課題に対する結論を表現しよう』や章末の『学んだことをつなげよう』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、技術・家庭科(技術分野)の学習内容と関連した『物質の性質』などに『教科関連マーク』が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、巻頭では話し合いと発表の仕方がキャラクターの活動で例示された『伝わる言葉にしよう。発表のしかた』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、食品に利用される菌類や細菌類としてみそや納豆が『自然のなかの生物』で取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、ルーペの使い方やスケッチのしかたを例示した『身近な生物の観察』や、花を分解する『花のつくりの観察』などが設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『P波とS波のちがいが』『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『科学技術の発展』では、インターネットで情報収集する際の注意について取り上げた『つながる科学』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習の流れを示すと共に、学習活動を示す『?課題』や『!結論』などのマークが示された『科学で調べていこう』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> これから学ぶ内容の導入として『レッツスタート!』が各節冒頭に設けられている。また、ページ下端に探究の流れが色分けして示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、探究の流れが問題発見から活用へと続く形式で設定され、章全体の見通しと振り返りの『Before&amp;After』が設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、微生物のはたらきを取り上げた『生活排水はどこへ行く?』などが『つながる科学』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、校内の気象要素の継続観測が取り上げられた『天気の変化』が掲載されている。観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 章末に『各節の課題に対する結論の例』などが、単元末には『学習内容の整理』や『確かめと応用』などが掲載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	大日本	書名	理科の世界 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基本的な知識の定着として『章末問題』が設けられている。また、単元末の振り返りとして、『まとめ』や『単元末問題』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭に探究のプロセスを示す『理科の学習の進め方』が掲載されている。また、単元末には『読解力問題』が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容とつながりのある『津波警報』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、自然環境の保全に関する『プラスチックのリサイクル』などが取り上げられた『くらしの中の理科』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、SDGsに関連する国際的な取組として『ラムサール条約』などが取り上げられた『SciencePress』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『水族館』や『水処理センター』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、探究活動の過程が『結果から考えよう』などのマークにより示されている。また、対話的な活動が『話し合おう』のマークにより設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、保健体育科の学習内容と関連した『一酸化炭素』などに『つながる』のマークが示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、話し合い活動に『話し合おう』などのマークが付され、キャラクターによる話し合いの例が示されている。章末に『読解力問題』が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、植物と万葉集の関連が『万葉集から見る植物』で示され、伝統や文化が関連する事柄として『日本を知る』マークが付されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、発泡ポリスチレンを用いたものづくりとして『原子や分子の模型をつくってみよう』を取り上げた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『粒子の運動と熱の関係』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、ICT機器を用いた情報収集の方法と注意を取り上げた巻末資料『探究の進め方』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習の流れを示すと共に、『問題を見つけよう』など学習活動を示すマークが取り上げられた『理科の学習の進め方』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭に『①問題の発見』から『⑦解説など』までの問題解決のプロセスと教科書との関連が示された『理科の学習の進め方』が設けられている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、学年ごとに考えを深める重点が色分けしたマークで示されている。実験では、探究の過程で『着目点』などの項目が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、学習内容と関連して『気象と農業の関係』や『霧を防ぐ工夫』などが取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『身近な物理現象』では、透明半球と凸レンズを使い目の模型を作る活動が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 章末に『章末問題』、単元末に『探究活動』や『単元末問題』が掲載され、4～6単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	学図	書名	中学校科学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、どのような知識を身に付けるかが『Can-Do List』で示され、章末には『何ができるようになったか』で内容を振り返る活動が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『気づき』から『考察』まで、探究の過程の例が吹き出しで示された『探究のページ』が設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『なぜ理科を学ぶの?』では、スポーツ分野での理科の活用例が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、『自然・科学技術と人間』では、自然環境の保全に関する取り組み例として『弘前だんぶり池』などが取り上げられた『資料』が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際的な取組であるSDGsが『理科のトリセツ』や『持続可能な開発目標』で取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、海底地震計などの科学技術やパイロットなどの職業について取り上げた『ミッションX』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、参照ページとともに『どうやったら対話的になるの?』などの解説が、巻頭の『理科のトリセツ』で示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、実験に用いる「結果」、「考察」などの語句の説明が『つながり・国語』として『つながる』マークで示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、巻頭にはレポートの書き方や発表の仕方などが示された『理科のトリセツ』や『授業を受けるコツ』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『酸とアルカリ』では、ぬかみその漬物や肉をやわらかくするなどの『酸やアルカリの利用』を取り上げた『資料』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、身の回りのものを用いた工作として、『牛乳パックでできる望遠鏡の製作』を取り上げた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校での学習内容の『電気分解での塩素の発生』が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、インターネットでの情報収集の注意点を上げた『学び続ける理科マスター!』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、巻頭に『考察』や『ふり返り』などの学習活動を示すマークを示した『教科書の使い方』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『どのように学びに向かうか』などの章の目標が、各章冒頭の『Can-Do List』で示され、『この時間の課題』として理科の見方、考え方がページ右上に設けられている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、探究の進め方で気をつけることが、『探究の進め方』で示されている。観察、実験では、重視するポイントが色分けしたマークで示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、学習内容に関連した『運動エネルギーの大きさの例』として、スポーツの運動エネルギー換算値が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『電流とそのはたらき』では、身近な材料で制作するクリップモーター作りが取り上げられた『資料』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 単元末に『学び続ける理科マスター』や『学びを日常にいかしたら』が掲載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『だれにでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	教出	書名	自然の探究 中学理科 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、学習内容の定着として、章末には『要点をチェック』や『学習後の私』が設定され、単元末には『要点と重要用語の整理』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各単元にまとめの例として、考察を通して論理的な表現をする『私のレポート』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容と日常生活の関連として『コピー機の仕組み』などを取り上げた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、生命尊重や環境保全の観点から、生物等の採集や観察、実験では、『注意マーク』で環境に影響を与えないことについて説明が記載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、SDGsに関連する国際的な取組である『海洋ごみ』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、白川英樹氏などノーベル賞を受賞した科学者とその功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、探究活動において話し合いを取り入れる活動にキャラクターの対話モデルが示されている。また、『話し合おう』などのマークが示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、数学科の学習内容と関連した「比例」などに『ブリッジ数学』のマークが示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、話し合い活動や考えを表現する活動には『話し合おう』などのマークが示されている。巻頭には、レポート作成の例がまとめ方とともに示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、酸化・還元の例として『たたら製鉄と現代の製鉄』が取り上げられた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、学校や自宅で飼育する動物の生活環境などを調べる『身近な脊椎動物の特徴を調べよう』が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『運動の法則』が『発展 高校』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、インターネットの活用を通じた情報収集の利点や危険性について取り上げられた『ハローサイエンス』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、巻頭に学習の流れが示され、『課題』や『仮説』などの学習活動を示すマークを示した『探究の進め方』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 探究活動の流れを確認する『探究の進め方』が巻頭に設けられ、観察や実験では、目的から考察までの流れが矢印で示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、ページの端に色がついたバーで示された『疑問から探究してみよう』が設定されている。また、計画の立て方や発表などの例が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、学習内容と関連がある『積乱雲の発達』や『さびたネジ』などの身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『大地の躍動と恵み』では、火山の噴火装置を制作するものづくり活動を取り上げた『チャレンジ』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 単元末に『要点と重要用語の整理』や『基本問題』、巻末に『学年末総合問題』が掲載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	啓林館	書名	未来へひろがるサイエンス3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、重要語句の確認として章末に『基本のチェック』が、学習内容のふり返りとして単元末に『力だめし』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、科学的な表現活動の例として、レポートにまとめる際のポイントが示された『わたしのレポート』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、日常生活と学習内容の関連として『イオン飲料で水分とイオン補給』などが取り上げられた『科学コラム』が掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、環境保全に関する内容に『環境マーク』が示されている。また、動物の扱いに対する注意が『ポイント』として記載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際的な取組としてSDGsをテーマにした2025年大阪・関西万博を取り上げた『ひろがる世界』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『学芸員』や『動物園デザイナー』などの職業を取り上げた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合いと発表の要点が『サイエンス資料』で示されている。また、話し合いの活動が『話し合ってみよう』などのマークで示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、社会科の学習内容に関連して、『社会科と関連』の教科関連マークとともに『石基ばかりの火山岩でつくられた石器』が取り上げられている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、仮説や計画を言葉で表現する活動が『探Q実験』で設定されている。また、話し合い活動として『表現してみよう』などのマークが示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、微生物のはたらきと関連させて『麹菌と日本特有の発酵食品』を取り上げた『お料理ラボ』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、身近な題材として園芸用の鹿沼土を用いて火山灰の成分を観察する実験などが『ためしてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『同素体』が『発展』として取り上げられ、『高校化学へ』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報の入手や共有方法や、情報収集する際の注意について取り上げた『ICTの活用』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、単元の始めに『学びの見通し』と学習内容に関連した課題として『学ぶ前にトライ!』が設定されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭に『課題の把握』→『課題の追究』→『課題の解決』のサイクルが示された『探究の過程』や、課題解決のプロセスと教科書本文の関連が示された『教科書の使い方』が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、単元ごとに、観察・実験を計画し、結果を分析・振り返りをする『探Q実験』が設けられ、重視する項目に『ここをしっかりと!』と付されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、身近な事柄と学習内容の関連が示された『体の中にも塩酸があるの?』などが『深めるラボ』で掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『光・音・力による現象』では、『タブレット顕微鏡づくり』などのものづくりの活動が取り上げられた『深めるラボ』などが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 単元末に『学習のまとめ』や『力だめし』、『みんなで探Qクラブ』、巻末に『学年末総合問題』が記載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅱ】

教科種目名《理科》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、全学年とも、各章末に『学んだことをチェックしよう』、単元末に『学習内容の整理』『確かめと応用』が設定されている。また、『巻末資料』には基本操作などが掲載されている。既習内容をふまえて『例題』『練習』『確認』や具体的な解説の場面『考え方』が設けられている。
大日本	「知識・技能」の習得について、全学年とも、基本的な知識の定着として、各章ごとに『章末問題』が設けられ、問題に対応した参照箇所が記載されている。単元末の振り返りとして、単元末には『まとめ』や『単元末問題』が設けられている。『基本操作』では、実験器具の基本的な操作が図や写真を用いて示されている。
学図	「知識・技能」の習得について、全学年とも、どのような知識を身に付けるかが各章はじめの『Can-Do List』で示され、章末の『何ができるようになったか』では『Can-Do List』の内容を振り返る活動が設定されている。また、基本操作・基本技能については、『基本操作』と表示された囲みの中で、手順や注意書きが記載されている。
教出	「知識・技能」の習得について、全学年とも、学習内容の定着として、章末には『要点をチェック』や『学習後の私』が設定され、要点に対応した参照箇所が示されている。単元末には『要点と重要用語の整理』が掲載されている。器具の使い方などを示した『基礎技能』や『レポートの書き方』が掲載されている。
啓林館	「知識・技能」の習得について、全学年とも、重要語句の確認として章末に『基本のチェック』が、単元末に『力だめし』が設けられている。実験の基本的な技能が『実験のスキル』や『サイエンス資料』で示されている。計算の活動などは『例題』が設定され、同じ考えで取り組む『練習』が設けられている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、『課題に対する自分の考えは?』『調べ方を考えよう』『考察しよう』など探究の過程に関する言語活動が設けられている。また、理科の見方・考え方が『科学のミカタ』で示されている。
大日本	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、巻頭に探究のプロセスを示す『理科の学習の進め方』が掲載されている。観察・実験では考察するポイントとして『結果から考えよう』や、結果の例が示されている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や、単元末には『読解力問題』が設定されている。
学図	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、『気づき』から『考察』まで、探究の過程の例が吹き出しで示された『探究のページ』が設けられている。各学年での探究の過程の重点が色分けされて示されている。ふり返りとして、章末の『何ができるようになったか』が設けられている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、巻頭にレポートの書き方と、各単元にまとめの例として、考察を通して論理的な表現をする『私のレポート』が掲載されている。また、『話し合おう』『やってみよう』『考えよう』などで思考や表現の活動が設定されている。
啓林館	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、科学的な表現活動の例として観察・実験の後に『わたしのレポート』が掲載され、レポートにまとめる際のポイントが示されている。また、グラフの作成や作図、モデル図の描画など、表現の場面として『かきこみ』が設けられている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮

東書	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、冬の川霧など身の回りの事象を用いた導入が設定されている。巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。学習内容と社会や生活とのつながりが『私たちとつながる科学』などで取り上げられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、水を入れたコップなど身の回りの事象を用いた導入が設定されている。巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。学習内容と社会や生活とのつながりが『私たちとつながる科学』などで取り上げられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、ボーリングなど身の回りの事象を用いた導入が設定されている。巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。学習内容と社会や生活とのつながりが『私たちとつながる科学』などで取り上げられている。</p>
大日本	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、学習内容とつながりのある『津波警報』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。また、『professional』に『音響設計士』や『水族館で働く人』など、学習内容と関連した仕事に掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、学習内容とつながりのある『果物や野菜の維管束』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。また、『professional』に『船長』が、学習内容と関連した仕事に掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、学習内容とつながりのある『力の分解の活用例』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。また、『professional』に『博物館学芸員』や『中性子の研究者』など、学習内容と関連した仕事に掲載されている。</p>
学図	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年の巻頭『なぜ理科を学ぶの?』では、スポーツ分野での理科の活用例が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。『理科のトリセツ』では、理科を学ぶ意義や探究の方法が示されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年の巻頭『なぜ理科を学ぶの?』では、『飛行機を安全に運任せよ!』で空港ではたらく人が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。『理科のトリセツ』では、理科を学ぶ意義や探究の方法が示されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年の巻頭『なぜ理科を学ぶの?』では、『自然災害から身を守れ!』で防災・減災に取り組む人が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。『理科のトリセツ』では、理科を学ぶ意義や探究の方法が示されている。</p>
教出	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、単元の導入や各章の導入に『さまざまな材料でできたコップ』などの身近な事物や現象が掲載されている。また、『まぜるな危険』など学習内容と日常生活との関連が取り上げられた『ハローサイエンス』や『発展』が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、単元の導入や各章の導入に『雷(いなずま)』などの身近な事物や現象が掲載されている。また、『コピー機の仕組み』など学習内容と日常生活との関連が取り上げられた『ハローサイエンス』や『発展』が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、単元の導入や各章の導入に『草津温泉』などの身近な事物や現象が掲載されている。また、『中和の利用～酸性河川の中和事業～』など学習内容と日常生活との関連が取り上げられた『ハローサイエンス』や『発展』が掲載されている。</p>
啓林館	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、『塩分のとりすぎにご注意を』など日常生活と学習内容の関連が取り上げられた『活用してみよう』や『科学コラム』が掲載されている。また、単元末には『ひろがる世界』として掲載されている。科学的に探究する態度の育成について『探究ガイダンス』が設けられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、『ケーキ屋さんやパン屋さんは化学の達人!』など日常生活と学習内容の関連が取り上げられた『活用してみよう』や『科学コラム』が掲載されている。また、単元末には『ひろがる世界』として掲載されている。科学的に探究する態度の育成について『探究ガイダンス』が設けられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、『イオン飲料で水分とイオン補給』など日常生活と学習内容の関連が取り上げられた『活用してみよう』や『科学コラム』が掲載されている。また、単元末には『ひろがる世界』として掲載されている。科学的に探究する態度の育成について『探究ガイダンス』が設けられている。</p>

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。

(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)

東書	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、自然環境の保全に関する『動物園から世界が見えてくる』などが取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、自然環境の保全に関する『温暖化予測で世界に貢献』などが取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、生命の尊重に関連した新技術に関する『再生医学への挑戦』が取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。</p>
大日本	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、環境や資源に関わる物事に『環境マーク』が表示されている。巻頭では、生命の尊重に関連した『動物の命を守る』という内容で『獣医』のコメントが掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、環境や資源に関わる物事に『環境マーク』が表示されている。『生物の体のつくりとはたらき』では、生命の尊重に関連し、メダカを素早く水槽に戻すこと、直接接触しないことなどが『注意』として示されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、環境や資源に関わる物事に『環境マーク』が表示されている。『科学技術と人間』では、自然環境の保全に関する『プラスチックのリサイクル』などが取り上げられた『くらしの中の理科』のコーナーが掲載されている。</p>
学図	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年の『身近な生物の観察』では、『Can-Do List』の『どのように学びに向かうか』で生命を大切に、むやみに傷つけないという目標が示されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年の『生物のからだと細胞』では、『Can-Do List』の『どのように学びに向かうか』で生命を大切に、むやみに傷つけないという目標が示されている。『メダカの尾びれの観察』など、生物を扱う観察、実験では、生物の負担にならない方法が示されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年の『自然・科学技術と人間』では、自然環境の保全に関する取組例として『弘前だんぶり池』などが取り上げられた『資料』が掲載されている。</p>
教出	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、生命尊重や環境保全の観点から、『身近な生物の観察』では、生物等の採集や観察では環境に影響を与えないことについて説明が記載されているとともに、『注意マーク』が付されている。また、学習活動で生徒同士が考えを伝え合う姿や、観察や実験を協力して行う姿が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、学習活動で男女の生徒同士が考えを伝え合う姿や、観察や実験を協力して行う姿が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、生命尊重や環境保全の観点から、『土壌中の微生物のはたらきを調べる』では、生物等の採集や観察では環境に影響を与えないことについて説明が記載されているとともに、『注意マーク』が付されている。また、学習活動で生徒同士が考えを伝え合う姿や、観察や実験を協力して行う姿が掲載されている。</p>
啓林館	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、『動物の体のつくりとはたらき』では動物に負担をかけないことについての注意が『ポイント』として記載されている。また、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</p>

⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。

(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)

東書	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『世界につながる科学』のコーナーでは、国際的な希少動物の保全に関する事柄が、『動物園から世界が見えてくる』で取り上げられている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、SDGsに関連する『温暖化』などの国際的な課題が『世界につながる科学』のコーナーなどで取り上げられている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、持続可能な社会をつくることについての話し合い活動『30年後の社会のために現在の社会とどうかかわるか』が設けられている。</p>
大日本	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、『チリ地震と津波』などが取り上げられた『SciencePress』のコーナーが掲載されている。また、環境や資源に関わる話題に『環境』マークが示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、『よりよい生活を目指して-SDGs-』で学習内容に関連した気候変動への対策などが取り上げられている。また、環境や資源に関わる話題に『環境』マークが示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、SDGsに関連して、『ラムサール条約』などが国際的な取組として『SciencePress』のコーナーなどで取り上げられている。また、環境や資源に関わる話題に『環境』マークが示されている。</p>
学図	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『理科のトリセツ』では、『世界的な課題を解決する』でSDGsが取り上げられている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年の『理科のトリセツ』では、『なぜ理科を学ぶの?』でSDGsについて『理科でできるようになること』が示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、『持続可能な開発目標』でSDGsについて取り上げられている。また、『気候変動』や『大気汚染など』の国際的な課題が取り上げられている。</p>
教出	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『大地の躍動と恵み』では、国際的な環境保全の取組として、『世界自然遺産』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年の『大気の躍動と恵み』では、SDGsに関連する国際的な取組である『大切な水、今世界では』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年の『科学技術の発展と私たち』では、SDGsに関連する国際的な取組である『海洋ごみ』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。また、SDGsを課題として話し合う活動が設定されている。</p>
啓林館	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『お料理ラボ』では、国際宇宙ステーションでの調理の様子が掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年の『ひろがる世界』のコーナーでは、持続可能な開発目標に関連する『海洋と日本の天気の関係』の内容に『海の豊かさを守ろう』の『SDGsマーク』が示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年の『ひろがる世界』のコーナーでは、国際的な取組としてSDGsをテーマにした2025年大阪・関西万博が取り上げられ、『エネルギーをみんなにそしてクリーンに』の『SDGsマーク』が示されている。</p>

⑥ [社会とかかわる力]社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーで、『薬は結晶化が命!』や『石油の分留』などの科学技術や、『地層の研究』や『楽器づくり』についている人が学習内容と関連付けて取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーで、『スポーツの世界での電子機器の活用』や『陰極線の研究から見つかったX線』などの科学技術や、『スポーツ用品メーカー』や『床発電システムの開発』についている人が学習内容と関連付けて取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーで、『世界一高い自立式電波塔』や『エネルギー変換効率の向上を目指して』などの科学技術や、『構造設計』や『防災担当』についている人が学習内容と関連付けて取り上げられている。</p>
大日本	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、『水族館』や『水処理センター』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。『科学のあしあと』では牧野富太郎などの科学者や、技術者の功績が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、『気象と船の運航』や『還元の利用』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。『科学のあしあと』ではボルタなどの科学者や、技術者の功績が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、『物質の詳しい構造を知るために』や『競技用車いすの開発』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。『科学のあしあと』では屋井先蔵などの科学者や、技術者の功績が取り上げられている。</p>
学図	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、学習内容と関わりがあるトレーニングや映像技術などの科学技術や義肢の開発や設計士などの職業について取り上げられた『ミッションX』のコーナーが巻頭に掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、『天気とその変化』の学習内容と関わりがある空港が取り上げられ、パイロットや整備士などの職業について取り上げられた『ミッションX』のコーナーが巻頭に掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、学習内容と関わりがある海底地震計や地震のシミュレーションなどの科学技術や地震観測やライフライン整備などの職業について取り上げられた『ミッションX』のコーナーが巻頭に掲載されている。</p>
教出	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年の巻頭では、ノーベル賞を受賞した科学者として白川英樹氏の功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。また、『ハローサイエンス』では『打ち水』や『反射板の仕組み』など、学習内容と日常生活との関連が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年の巻頭では、ノーベル賞を受賞した科学者として天野浩氏の功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。また、『ハローサイエンス』では『さまざまな電池とその電圧』や『熱中症にご注意を』など、学習内容と日常生活との関連が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年の巻頭では、ノーベル賞を受賞した科学者として山中伸弥氏の功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。また、『ハローサイエンス』では『里山の環境』や『水辺の環境の復元』など、自然と日常生活との関連が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、学習内容と関連して『石灰岩はとても有効』や『動物園デザイナー』で、働く人が取り上げられた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、学習内容と関連して『気象予報士』や『夜空を彩る一瞬の芸術』で、働く人が取り上げられた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、学習内容と関連して『恐竜博物館の学芸員さんに聞きました』や『これからの太陽系探査』で、働く人が取り上げられた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。また、『防災減災ラボ』では、中学校の防災部が『自助・共助・公助』で取り上げられている。</p>

### 3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭に探究の流れや発表の仕方などをイメージするマンガの解説が掲載されている。自分と他者との考えを交流させる活動として『課題に対する結論を表現しよう』や、章の最後の『学んだことをつなげよう』が設けられている。
大日本	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、『問題を見つけよう』や『結果から考えよう』など、探究活動の過程がマークにより示されている。また、『話し合おう』のマークとともに対話的な学びの活動を取り入れる場面に、例としてキャラクターの会話が掲載されている。
学図	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭の『理科のトリセツ』で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた『どうやったら対話的になるの??』などの解説が参照ページとともに示されている。単元末に、『ふり返って深める』や『発信して深める』などをまとめた『学び続ける理科マイスター』が設けられている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭に『探究の進め方』が設けられ、探究活動が過程を追って示されている。探究活動において話し合いを取り入れる場面にキャラクターの対話モデルが示されている。また、『話し合おう』や『活用しよう』マークが示され、話し合いや考えを表現する活動が設けられている。
啓林館	主体的・対話的で深い学びについて、第1・2学年の巻末『サイエンス資料』に理科における話し合いと発表の要点が示されている。また、各学年において『話し合ってみよう』、『考えてみよう』、『表現してみよう』や『みんなで解決』のマークとともに話し合いの活動が示されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)

東書	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『物の調べ方』では、技術・家庭科（技術分野）の学習内容と関連した『物質の性質』が『技術・家庭で学ぶこと』として『教科関連マーク』で示されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『大気の動きと天気の変化』では、社会科の学習内容と関連した『偏西風』が『社会科（地理）で学ぶこと』として『教科関連マーク』で示されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『さまざまな物質とその利用』では、技術・家庭科（技術分野）の学習内容と関連した『プラスチック』が『技術・家庭で学ぶこと』として『教科関連マーク』で示されている。
大日本	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『光の性質』では、中学校美術科の学習内容と関連した『RGB（光の3原色）』が『つながる』のマークで示されている。科学的な話題と日本での出来事が同時に掲載され、社会科と関連付ける『そのころの日本』が設けられている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『いろいろな化学変化』では保健体育科の学習内容と関連した『一酸化炭素』が『つながる』のマークで示され、『くらしの中の理科』で取り上げられている。科学的な話題と日本での出来事が同時に掲載され、社会科と関連付ける『そのころの日本』が設けられている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『物体の運動』では、『科学のあしあと』にニュートンが取り上げられ、社会科と関連付けて日本での出来事が同時に掲載された『そのころの日本』が設けられている。
学図	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『身近な生物の観察』では、実験に用いる「結果」、「考察」などの語句の説明が『つながり・国語』として『つながる』マークで示された『基本操作』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『電流と電圧』では、数学科と関連した「比例」がこれまでに学んだ「 $y=ax$ 」の式とともに『つながり・数学』として『つながる』マークで示されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『太陽系と宇宙の広がり』では、『つながり・社会』として古代エジプトやイギリスのストーンヘンジなどの天体観測に関わる事柄が『つながる』マークで示されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『水溶液の性質』では、これまでに学んだ「線分図」が、算数科での学習内容として『ブリッジ算数』のマークで示されている。巻末資料に『理科で使う算数・数学』『単位について』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『電流と電圧の関係』では、これまでに学んだ「比例」が、数学科での学習内容として『ブリッジ数学』のマークで示されている。巻末資料に『理科で使う算数・数学』『単位について』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『力と運動』では、これまでに学んだ「速さ」が、算数科での学習内容として『ブリッジ算数』のマークで示されている。巻末資料に『理科で使う算数・数学』『単位について』が掲載されている。
啓林館	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『火をふく大地』では、『石基ばかりの火山岩でつくられた石器』が『社会科と関連』の教科関連マークとともに取り上げられている。また、巻末に『理科でよく使う算数・数学』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『動物の体のつくりとはたらき』では、『五大栄養素』が『家庭科と関連』の教科関連マークとともに取り上げられている。また、巻末に『理科でよく使う算数・数学』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『地球から宇宙へ』では、『星はすばる』が『国語と関連』の教科関連マークとともに取り上げられている。また、巻末に『理科でよく使う算数・数学』が掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成

東書	言語能力の育成について、全学年とも、巻頭では話し合いと発表の仕方がキャラクターの活動で例示された『伝わる言葉にしよう。発表のしかた』が掲載されている。単元において、考えを文章化する活動の『課題に対する結論を表現しよう』や『学びをいかして考えよう』が設けられている。
大日本	言語能力の育成について、全学年とも、対話的な学びの活動では、『話し合おう』などのマークとともに、キャラクターの会話の場面が掲載されている。また、巻末に『読解力問題』が設定されている。第1学年の巻末資料では、実験ノートやレポート作成の使い方やまとめ方が例とともに示されている。
学図	言語能力の育成について、全学年とも、巻頭にはレポートの書き方や発表の仕方などが示された『理科のトリセツ』や『授業を受けるコツ』が掲載されている。また、観察、実験後にはレポート作成の参考例が掲載されている。単元末に『学びを日常に生かしたら』として記述問題が設けられている。
教出	言語能力の育成について、全学年とも、話し合い活動や考えを表現する活動には『話し合おう』や『活用しよう』のマークが示されている。また、巻頭の『基礎技能』では、レポート作成の例が項目ごとのまとめ方とともに示されている。また、『私のレポート』としてレポートの作成例が記載されている。
啓林館	言語能力の育成について、全学年とも、『探Q実験』では、仮説や計画を言葉で表現する活動が設定されている。また、本文中に『話し合ってみよう』『表現してみよう』のマークが示されている。第1・2学年の巻末『サイエンス資料』において、理科における話し合いと発表の要点が示されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『世界につながる科学』では、『ギター』や『和太鼓』の技術者が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『つながる科学』では、日本で古来より行われている『たたら製鉄』や乾電池を発明した屋井先蔵が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『自然のなかの生物』では、食品に利用される菌類や細菌類としてみそや納豆が取り上げられている。</p>
大日本	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、『万葉集から見る植物』で植物と万葉集の和歌の関連が示されている。科学と日本の伝統や文化が関連する事柄には『日本を知る』マークが付されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、『気象に関する身近なことば』が『くらしの中の理科』で取り上げられている。科学と日本の伝統や文化が関連する事柄には『日本を知る』マークが付されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、『天体観測の歴史』が『宇宙の中の地球』で取り上げられている。科学と日本の伝統や文化が関連する事柄には『日本を知る』マークが付されている。</p>
学図	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『物質の分類』では、金属がもつ展性の性質の利用として鍛冶が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『化学変化の利用』では、酸化と還元の利用例として花火やたたら製鉄が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『酸とアルカリ』では、学習内容に関連した酸の利用としてぬかみその漬物が、アルカリの利用として肉をやわらかくするなどの『酸やアルカリの利用』が取り上げられた『資料』が掲載されている。</p>
教出	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『水溶液の性質』では、再結晶の例として『揚げ浜式製塩法』などが取り上げられた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『いろいろな化学変化』では、酸化・還元の利用例として『たたら製鉄と現代の製鉄』が取り上げられた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『みんなの力を合わせると』では、力の合成の例として祭りの山車が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『物質のすがたとその変化』では、『鋳物づくり』が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『さまざまな化学変化』では、『たたら製鉄』や『江戸時代の静電気の実験』が取り上げられた『深めるラボ』が掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『自然界のつり合い』では、微生物のはたらきと関連させて、『麹菌と日本特有の発酵食品』が取り上げられた『お料理ラボ』が掲載されている。</p>
⑪ 体験活動の充実	
東書	<p>体験活動の充実について、第1学年では、ルーペの使い方やスケッチのしかたを例示した『身近な生物の観察』や花を分解する『花のつくりの観察』などが設定されている。また、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設やジオパークなどが取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『気象の観測』では、校内での気象要素の観測が設定されている。また、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『自然環境の調査と保全』では、『身近な自然環境の調査』が設定されている。また、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設が取り上げられている。</p>
大日本	<p>体験活動の充実について、第1学年の『気体の発生と性質』では、ジャガイモや酢など、身の回りのものを用いて酸素や二酸化炭素を発生させる実験が『やってみよう』で取り上げられている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設、ジオパークなどが巻末で取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『物質の成り立ち』では、発泡ポリスチレンを用いたものづくりとして『原子や分子の模型をつくってみよう』が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設が巻末で取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『自然環境と人間』では、『川の水を調べよう』や『松の葉の気孔のようすを調べよう』など、身の回りの自然環境の調査が設けられている。『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設が巻末で取り上げられている。</p>
学図	<p>体験活動の充実について、第1学年では、身の回りのものを用いた工作として、『牛乳パックでできる望遠鏡の製作』が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。『地層』では露頭の野外調査やジオパークが取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『天気とその変化』では、気象要素の継続観測が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『地球と宇宙』では、太陽表面の継続観測が取り上げられている。また、巻末の『学校外で調べよう』では校外施設が取り上げられている。</p>
教出	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『やってみよう』や『チャレンジ』で学校や自宅で飼育する動物の生活環境や体の動かし方などを調べる『身近な脊椎動物の特徴を調べよう』などの身近なものの観察、観測が設定されている。また、『ハローサイエンス』でジオパークが、『巻末資料』では、身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『やってみよう』や『チャレンジ』で『校内での気象観測』『天気の予測』などの身近なものの観察、観測が設定されている。また、『巻末資料』では、身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『やってみよう』や『チャレンジ』で、プロジェクターを使用した月の満ち欠けの再現が取り上げられている。また、『巻末資料』では、身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>体験活動の充実について、第1学年の『火山灰の観察』では、身近な題材として園芸用の鹿沼土を用いて火山灰の成分を観察する実験などが『ためてみよう』に掲載されている。巻末の『サイエンス資料』では、『寒天を使ってボーリング調査をしよう』など身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『地球をとり巻く大気のようす』では、気象要素の変化を記録する観測が取り上げられている。巻末の『サイエンス資料』では、『体温で上昇気流をつくってみよう』など身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『月と金星の動きと見え方』では、金星の観測が取り上げられている。巻末の『サイエンス資料』では、『電気ペンをつくってみよう』など身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p>

⑫ 学校段階間の円滑な接続

東書	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭や本文中で、既習内容が『これまでに学んだこと』で示されている。また、『動き続ける大地』では高校の学習内容の『P波とS波のちがい』が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭や本文中で、既習内容が『これまでに学んだこと』で示されている。また、『発電機のしくみ』では高校の学習内容の『コイルに流れる誘導電流の向き』が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、単元冒頭や本文中で、既習内容が『これまでに学んだこと』で示されている。また、『化学変化と電池』では高校の学習内容の『イオン化傾向』が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p>
大日本	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでに学んだこと』で、本文中では『思い出そう』で示されている。『物質の状態変化』では、高校の学習内容の『粒子の運動と熱の関係』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークと『化学』の分野で示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでに学んだこと』で、本文中では『思い出そう』で示されている。『物質の成り立ち』では、高校の学習内容の『炎色反応』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークと『化学基礎』の分野で示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでに学んだこと』で、本文中では『思い出そう』で示されている。『物体の運動』では、高校の学習内容の『加速度』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークと『物理基礎』の分野で示されている。</p>
学図	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭で既習内容が『ふり返ろう・つなげよう』で示されている。高校の学習内容は『発展』として取り上げられている。『植物の分類』では、植物のからだのつくりが『ふりかえり』の囲みで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『ふり返ろう・つなげよう』で示されている。『生物のからだと細胞』では、高校での学習内容の『細胞のくわしいつくりとはたらき』が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、単元冒頭で既習内容が『ふり返ろう・つなげよう』で示されている。『イオンの化学式』では、高校での学習内容の『電気分解での塩素の発生』が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。</p>
教出	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでの学習』で、本文中では『思いだそう』で示されている。『植物の体の共通点と相違点』では、高校の学習内容の『藻類』が『発展 高校』のマークとともに『生物基礎』の分野として取り上げられている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでの学習』で、本文中では『思いだそう』で示されている。『電流と磁界』では、高校の学習内容の『変圧器』が『発展 高校』のマークとともに『物理』の分野として取り上げられている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでの学習』で、本文中では『思いだそう』で示されている。『力と運動』では、高校の学習内容の『運動の法則』が『発展 高校』のマークとともに『物理基礎』の分野として取り上げられている。</p>
啓林館	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、章の導入で既習内容が『つながる学び』で、本文中では『思いだしてみよう』で示されている。『語る大地』では、高校の学習内容の『変成岩』が『発展』として取り上げられ、『高校地学へ』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、章の導入で既習内容が『つながる学び』で、本文中では『思いだしてみよう』で示されている。『物質の表し方』では、高校の学習内容の『同素体』が『発展』として取り上げられ、『高校化学へ』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、章の導入で既習内容が『つながる学び』で、本文中では『思いだしてみよう』で示されている。『遺伝の規則性と遺伝子』では、高校の学習内容の『DNA』が『発展』として取り上げられ、『高校生物へ』のマークで示されている。</p>

⑬ 情報活用能力の育成

東書	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットの利用により情報収集する際の方法や注意について取り上げられている。『音の性質』では、ビデオカメラを用いた音の速さを調べる方法が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、インターネットの利用により情報収集する際の方法や注意について取り上げられている。『気象の観測』では、コンピューターを使った自動計測装置が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『科学技術の発展』では、インターネットでの情報収集する際の注意について取り上げた『つながる科学』が掲載されている。『科学技術と人間』では、タブレット端末を用いて調べ学習をする様子が示されている。</p>
大日本	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットを利用しての情報検索の方法と注意が巻末資料『探究の進め方』で示されている。また、機器の活用を通しての情報収集や発表の仕方が取り上げられている。ICT機器の活用場面がマークで示されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年の『気象観測』では、ICT機器の活用場面のマークとともに『データロガー』が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年『科学技術と人間』では、コンピューターを用いる際の注意が記載されている。『物体の運動』では、カメラを使って運動を記録する方法が『Science Press』で示されている。</p>
学図	<p>情報活用能力の育成について、第1学年の『音の性質』では、オシロスコープなどのデジタル機器の活用を通しての情報収集の仕方が取り上げられている。また、インターネットでの情報収集の注意点が『学び続ける理科マスター！』が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年の『日本の天気』では、『自分で天気予報を出そう』で天気図に関してインターネットの利用、活用を通しての情報収集の仕方が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年の『太陽や星の見かけの動き』では、『天体の動きの観察』について、インターネットの利用や、デジタル機器の活用を通しての情報収集の仕方が、『サイエンスカフェ』で取り上げられている。</p>
教出	<p>情報活用能力の育成について、第1学年の『音の性質』では、オシロスコープなどのデジタル機器の活用を通しての情報収集の仕方が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、プレゼンテーションソフトを用いての発表の活動が示されている。『天気の変化』では、インターネットを利用しての情報収集の方法が記載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年の『科学技術の発展と私たち』では、インターネットの活用を通じた情報収集の利点や危険性について取り上げられている。また、『ハローサイエンス』で情報モラルが取り上げられている。</p>
啓林館	<p>情報活用能力の育成について、第1学年の『物質とすがたとその変化』では、温度センサーを用いた温度変化の自動計測に、ICT機器の活用場面を示す『ICTマーク』が付されている。『ICTの活用』では、情報の入手や、情報収集する際の注意について取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年の『地球をとり巻く大気のような』では、気象情報の収集に関して、ICT機器の活用場面を示す『ICTマーク』が付されている。『ICTの活用』では、情報共有方法が示され、情報収集する際の注意について取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年の『生物の種類の多様性と進化』では、『進化について調べよう』で進化についての調査に『ICTマーク』が付されている。『科学技術の発展』では、インターネットの普及による情報入手方法の多様化について取り上げられている。</p>

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、学習の流れを示すと共に、学習活動を示す『?課題』や『!結論』などのマークが示された『科学で調べていこう』が掲載されている。各章の始めと終わりに、章全体の見通しと振り返りの『Before&After』が設定されている。
大日本	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、学習の流れを示すと共に、『問題を見つけよう』など学習活動を示すマークが取り上げられた『理科の学習の進め方』が掲載されている。『話し合おう』のマークでは、疑問に対する考え方がキャラクターの吹き出しによって例示されている。
学図	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、巻頭に『考察』や『ふり返り』などの学習活動を示すマークが示された『教科書の使い方』が掲載され、探究の流れに沿って矢印で結ばれている。本文中や観察、実験ではキャラクターの吹き出しによって課題への取り組み方が例示されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、巻頭に『探究の進め方』が掲載され、学習の流れが示されている。『課題』や『仮説』などの学習活動を示すマークが示され、探究の進め方の例が、キャラクターの吹き出しにより示されている。
啓林館	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、単元の始めに『学びの見通し』と学習内容に関連した課題として『学ぶ前にトライ!』が、単元の終わりに『学んだあとにリトライ!』が設定されている。課題を示す『?』や、『表現してみよう』など学習活動を示すマークが用いられている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	全学年とも、これから学ぶ内容の導入として『レッツスタート!』が各節冒頭に設けられ、『これまで学んだこと』では既習内容が示されている。また、ページ下端に問題発見から活用まで探究の流れが色分けして示されている。
大日本	全学年とも、巻頭の『理科の学習の進め方』では、『①問題の発見』から『⑦解説など』までの問題解決のプロセスと教科書との関連が示されている。各単元はじめに『これまで学習したこと』と『これから学習すること』が設けられ、既習事項を振り返り次へつなげる設定がされている。
学図	全学年とも、『どのように学びに向かうか』などの章の目標が、各章冒頭の『Can-Do List』で示されている。また、『この時間の課題』として理科の見方、考え方がページ右上に設けられている。各単元の最初の『ふり返ろう・つなげよう』で、既習内容との関連が示されている。
教出	全学年とも、探究活動の流れを確認する『探究の進め方』が巻頭に設けられている。観察や実験では、目的から考察までの流れが矢印で示されている。本文中では探究の進め方が生徒のキャラクターの対話を通して例示され、既習内容を確認する『思いだそう』が設けられている。
啓林館	全学年とも、『探究の過程』において『課題の把握』→『課題の追究』→『課題の解決』のサイクルが示されている。また、『教科書の使い方』では課題解決のプロセスと教科書本文の関連が示されている。実験では、手順が『ステップ1』や『ステップ2』などと示されている。
⑯ 観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
東書	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、探究の流れが問題発見『レッツスタート!』で考えたり調べたりして、活用『学びを生かして考えよう』へと続く形式で設定されている。章全体の見通しと振り返りの『Before&After』が設けられている。
大日本	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、『問題を見つけよう』『計画を立てよう』『結果から考えよう』『振り返ろう』に重点が置かれ、本文中では色分けしたマークによって強調されている。実験では、科学的な探究の過程が明確になるように『着目点』などの項目が示されている。
学図	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、学年ごとに探究の進め方で気をつけることが、巻頭の『探究の進め方』で示されている。観察、実験では、重視するポイントが色分けしたマークで示されている。
教出	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、各単元に『疑問から探究してみよう』が設定され、ページの端に色がついたバーで示されている。探究の過程が『疑問を見つける』から『結論を示す』まで示されている。観察、実験では、計画の立て方や結果のまとめ方などの例が、キャラクターや黒板のイラストで示されている。
啓林館	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、各単元に、観察・実験を計画して結果を分析・振り返りをする『探Q実験』が設けられ、重視する『探究のふり返り』の項目に『ここをしっかりと!』と付されている。

①⑦ 観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	
東書	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『いろいろな生物とその共通点』では、煮干しとシバエビの体のつくりを観察する実験が扱われている。また、『つながる科学』で『石油の分留』が例示されている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『天気の変化』では、様々な雲の写真を例にして天気を考える題材が設定されている。また、『つながる科学』で『急な天気の変化から身を守る』などが掲載されている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『化学変化とイオン』では、身の回りの物質のpHを図る実験が扱われている。また、『つながる科学』で微生物のはたらきを取り上げた『生活排水はどこへ行く?』などが掲載されている。
大日本	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『物質の姿』では、ジャガイモや酢など身の回りのいろいろな物質から気体を発生させる実験が扱われている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『気象の仕組みや天気の変化』では、学習内容に関連して『気象と農業の関係』『霧を防ぐ工夫』『乾湿計の仕組み』などが『くらしの中の理科』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『化学変化とイオン』では、牛乳や石鹸など身の回りの物質のpHを図る実験が扱われている。
学図	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『身の回りの物質』では、生活で用いる身の回りの物体を分類する活動が『やってみよう』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『化学変化と原子分子』では、温泉に金属をつけて入ってはいけぬ理由を探る実験が取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『仕事とエネルギー』では、学習内容に関連した『運動エネルギーの大きさの例』として、スポーツの運動エネルギー換算値が掲載されている。また、『水溶液とイオン』では、『銅の精錬』が『資料』で掲載され、日常で使う金属と学習内容の関連性が示されている。
教出	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年では、『鋳造所』や『ウユニ塩湖』など、学習内容と関連がある身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『積乱雲の発達』や『リニア新幹線』など、学習内容と関連がある身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『スキージャンプ』や『さびたネジ』など、学習内容と関連がある身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。
啓林館	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『動物の特徴と分類』では、身近な事柄と学習内容の関連が示された『グラウンドの白線』が科学コラムの『部活ラボ』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『生命』では、部活に関連して身近な事柄と学習内容の関連が示された『運動神経は鍛えられるか?』が科学コラムの『部活ラボ』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『酸・アルカリと塩』では、身近な事柄と学習内容の関連が示された『体の中にも塩酸があるの?』が科学コラムの『深めるラボ』で取り上げられている。
①⑧ 原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
東書	体験的な学習活動について、第1学年では、『こんにやくで地震を感じよう』など身近な材料でできる実験の題材が取り上げられている。巻末には、観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『天気の変化』では、校内の気象要素の継続観測が取り上げられている。巻末には、観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第3学年の『水中ではたらく力』では、『浮沈子』をつくる体験的な学習活動が取り上げられている。巻末には、観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。
大日本	体験的な学習活動について、第1学年の『身近な物理現象』では、透明半球と凸レンズを使い目の模型を作る活動が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。また、『身近な生物の観察』の中で動植物の継続観察が掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『電流とその利用』では、スピーカー作りが取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。また、『気象観測』の中で1日のうちの気象要素の変化の継続観測が掲載されている。 体験的な学習活動について、第3学年の『地球と宇宙』では、透明半球を使った太陽の一日の動きの観察が取り上げられている。
学図	体験的な学習活動について、第1学年では、『身近な生物の観察』の中で野外調査について掲載がされている。また、『屈折の利用』では、牛乳パックで望遠鏡を製作するものづくりの活動が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『電流とそのはたらき』では、クリップモーター作りが取り上げられた『資料』が掲載されている。また、『天気の変化』では、気象観測を行う体験的な学習活動を取り入れている。 体験的な学習活動について、第3学年の『地球と宇宙』では、三日月の日から2週間程度の同時刻での月の位置と形の観察が取り入れられている。
教出	体験的な学習活動について、第1学年の『大地の躍動と恵み』では、火山の噴火装置を制作するものづくり活動が取り上げられた『チャレンジ』が掲載されている。巻末には生物カードが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『天気の変化』では、校内での気象要素の日をまたいだ継続観測が取り上げられている。巻末には原子カードが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第3学年の『地球と宇宙』では、透明半球を使った太陽の一日の動きの観察が取り上げられている。巻末には星座早見が資料として掲載されている。
啓林館	体験的な学習活動について、第1学年の『光・音・力による現象』では、『タブレット顕微鏡づくり』などのものづくりの活動が『深めるラボ』などで取り上げられている。 体験的な学習活動について、第2学年の『地球をとり巻く大気のようにす』では、『雨量計・風向計をつくってみよう』などのものづくりの活動が『深めるラボ』で設けられている。 体験的な学習活動について、第3学年の『宇宙を観る』では透明半球を使った太陽の一日の動きの継続観察が取り上げられている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	全学年とも、節ごとに『問題発見』や『課題』、『課題に対する結論を表現しよう』、章末に『各節の課題に対する結論の例』や『学んだことをチェックしよう』が掲載されている。単元末には『学習内容の整理』や『確かめと応用』が掲載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
大日本	学習内容ごとの課題に対して、学習課題を提示してから観察や実験を行う設定がされている。観察や実験の結果の例は、次ページに掲載されている。章末に『章末問題』、単元末に『探究活動』や『まとめ』、『単元末問題』、『読解力問題』が掲載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は6単元で構成されている。
学図	各章ごとに『Can-Do List』、単元末に『学び続ける理科マスター』や『学びを日常にいかしたら』が掲載されている。学習内容ごとの課題に対して、見方、考え方の例として『この時間の課題』がページ右上部に設けられ、『この時間のまとめ』がページ右下に設けられている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
教出	章末に『要点をチェック』や『学習後の私』、単元末に『要点と重要用語の整理』や『基本問題』、巻末に『学年末総合問題』が掲載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
啓林館	章末に『基本のチェック』、単元末に『学習のまとめ』や『力だめし』、『みんなで探Qクラブ』、巻末に『学年末総合問題』が記載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA4変型判が採用されている。
大日本	判型はB5判が採用されている。
学図	判型はAB判が採用されている。
教出	判型はAB変型判が採用されている。
啓林館	判型はAB判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
大日本	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
学図	『だれにでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
啓林館	『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	<p>第1学年 228ページ 泥岩の写真(横須賀市)、237ページ 断層の写真(三浦市)、238ページ 地層の写真(小田原市)、 256ページ 神奈川県立生命の星・地球博物館の写真(小田原市)</p> <p>第3学年 163ページ 工業地帯のクレーンの写真(横浜市)、181ページ 火力発電所のタービン軸の写真(川崎市)、 288ページ 火力発電所の写真(横浜市)、297ページ ハザードマップの例(三浦市)、 321ページ みなとみらい技術館の写真(横浜市)</p>
大日本	<p>第1学年 38ページ 庭園の写真(箱根町)、199ページ 海辺の地形の写真(藤沢市)、201ページ 火山の写真(箱根町)、 214ページ 小田原城の写真(小田原市)、217ページ 火山ガスへの注意の看板の写真(箱根町)、 224・241ページ 地層の写真(三浦市)、242ページ 地層の写真(相模原市)、244ページ 地層の写真(横須賀市)、 259ページ ジオパークの写真(南足柄市)、279ページ 神奈川県立生命の星・地球博物館の写真(小田原市)、 292ページ 新江ノ島水族館の写真(藤沢市)</p> <p>第2学年 237ページ 警告看板の写真(相模原市)、274ページ 江の島の写真(藤沢市)、276ページ 横浜の写真(横浜市)、 300ページ よこはま動物園ズーラシア(横浜市)、京急油壺マリンパーク(三浦市)の写真</p> <p>第3学年 72ページ 遊園地の写真(横浜市)、122ページ 神奈川県立生命の星・地球博物館の博物館学芸員の写真(小田原市)、 209ページ 畑でpHの調整をする人の写真(相模原市)、282ページ 横浜山下公園の日時計の写真(横浜市)、 295ページ 魚道の写真(寒川町)、304ページ 火力発電所の写真(横浜市)</p>
学図	<p>第1学年 212ページ 泥岩の写真(葉山町)、225ページ 地層の写真(茅ヶ崎市、横須賀市)、江の島のボーリング試料(藤沢市) 244ページ 隆起してできた地形の写真(藤沢市)</p> <p>第2学年 60ページ 製鉄所の高炉の写真(川崎市)、146ページ 夜景の写真(横浜市)、261ページ 寺の風景の写真(鎌倉市)</p> <p>第3学年 259ページ 津波の避難マークの写真(藤沢市)、 269ページ 丹沢山地(相模原市)、学校外施設等の紹介(よこはま動物園ズーラシア、藤沢市長久保公園都市緑化植物園、相模原ふれあい科学館、アクアリウムさがみはら、神奈川県立生命の星・地球博物館、新江ノ島水族館)</p>
教出	<p>第1学年 46ページ 博物館の写真(相模原市)、194ページ 海岸段丘の写真(三浦市)、 224～225ページ 鉄道の踏切と警報器の写真(鎌倉市)</p> <p>第3学年 112ページ 県内原産の柿の写真(川崎市)、245ページ 遊園地の写真(横浜市)、 289ページ 河川改修が行われた川の写真(横浜市)、325ページ 工業団地の写真(川崎市)</p>
啓林館	<p>第1学年 4ページ 夜景の写真(横浜市)、35・63ページ よこはま動物園ズーラシアの写真(横浜市)、 69・70ページ 地層の写真(三浦市、小田原市)、72ページ 石垣の写真(小田原市)、 193ページ 石油の蒸留塔の写真(横浜市)、273ページ 芦ノ湖の切手の写真(箱根町)</p> <p>第2学年 124ページ 遊水地の写真(横浜市)、174ページ 花火大会の写真(横浜市)、 276ページ 発電用ガスタービンの写真(川崎市)</p> <p>第3学年 140ページ 水素ステーションの写真(横浜市)、187ページ 斜張橋の写真(横浜市)、219ページ 遊園地の写真(横浜市)、238ページ 太陽光発電がある住宅街の写真(藤沢市)、263ページ 下水処理場の反応タンクの写真(横浜市)、 321ページ 日時計の写真(横浜市)</p>

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名	1年	2年	3年			
東書	有	有	有			
大日本	有	有	有			
学図	有	有	有			
教出	有	有	有			
啓林館	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	1年	2年	3年		
東書	3	533	625	660		
大日本	3	526	563	660		
学図	3	527	554	543		
教出	3	687	706	788		
啓林館	3	618	646	707		